

清国廣東下 第十九卷

Thomas Clark
George Ballou
and
May

5
525
525
2025
1000
73125
525
15625
6540

125

525
525
275
275
9025
525
15125
15125
166375

1.



崖山行

同行三名

大瀧八郎
伊藤豊彦
伊藤忠太

教へ来て是の如く水邊にヒツリ見入るや
イッパツの如く此の文章の如く塔



廣塘附近（風水塔と文章塔と見入る）

船中明見（鶏料理）



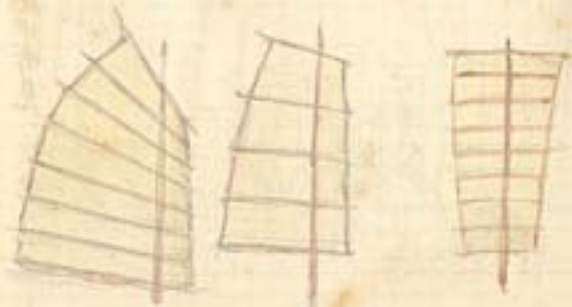
明見合のり大庖刀、肩先を深く斬り込
むと見ゆ、廢た御厨の如く、御籠と取り
出してかたきり、我てつ、才二の刀を脊骨筋を
脚を割き、五膳六膳を取り出し、五膳は
長段に切り、放り、二膳を裁ち、小片をさき、さき
れる、八膳をさき、八子のゆで、さき、他は、骨
を肉、鶏を、大取の甲子、皮を、けり、

イサム...



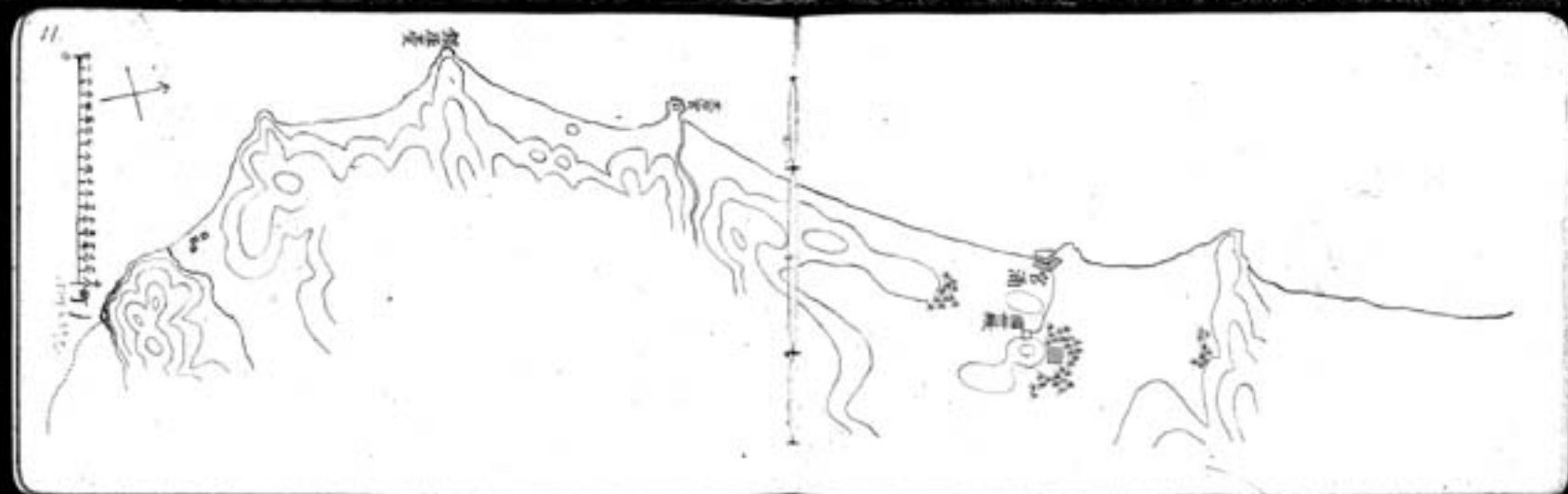
江門町見

小供が三疋
 (紐子ワタの丸籠籠を以て)



帆のいろいろ







崖門卡



○南宋三傑の末路

迎船の屋山



市賣の屋山



○金節廟

△慈光殿

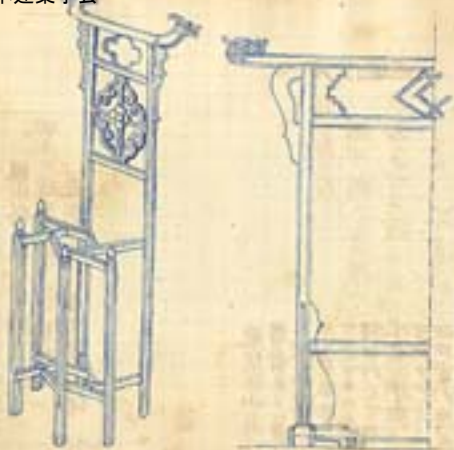
宋景美場大右之住と安置す

その柱



その配殿の窓





△全前廟後殿の家具

前子、夜架、盤架の二あり、共に意匠
見ても、此の如くあり、蓋し揚太后の御
納せられたるものなり。



○揚太后の陵

雨中揚太后の陵を訪いて

さあきだま涙もぬるく、杖袖を

垂りし石と竹春雨の降る



宋景文揚太后之神位



水兵

大和陵遠望



○風水塔と文章塔
 風水と礎はうけてかくまわり
 立ちあはれは文章の塔

東は瀬山島の
 磐石ある一連
 の峻岳連なり
 その支脈西を向
 て是より南に
 相背行してコ
 字明の平野を
 中央に包み入り
 西は崖門湾を
 麓として廣一
 里を出入す。即
 ち此れ南米屋
 敷の宮殿の直
 趾なり。その
 水は即ち筑紫
 の軌跡を流す
 うれしき泉あり。

筏



西江を下り筏
 柱は長百間幅
 三四十間及び
 上下家を建て
 家畜飼養も
 あり
 材は一種の杉の類
 ありて長さ約二間
 木は五寸乃至八
 寸厚は一尺乃至
 一尺二寸厚の材と
 して用ゐるなり
 一筏は材を三層
 ほど積みおき其敷
 一萬水に達する
 ものあり



水門附近の女子(所謂烏登)

3安南+5馬來+2支那 = 烏登
 10

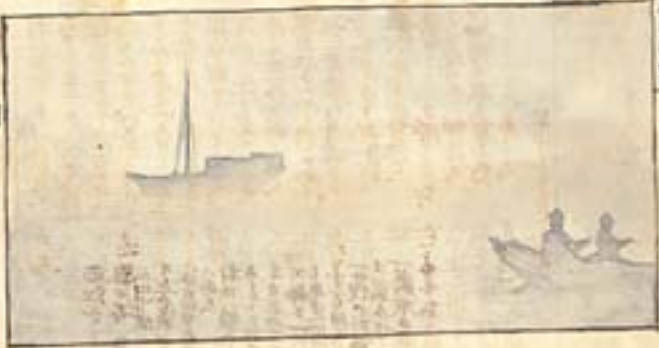
崖門の朝霧

朝霧積厚く立ち雲を以て
 舟の影もさへ見えぬ
 浪の音ももよおさず
 在りかと思ふに知らざれば
 小舟を走らす浪の音も
 崖を離れ行く十丈の
 崖の底に霞を以て分らず
 霧の世も行く如く
 又此霧は海に消え
 舟も見えず舟の影
 再び進む霞を以て
 舟の影もさへ見えぬ
 浪の音ももよおさず
 在りかと思ふに知らざれば
 小舟を走らす浪の音も
 崖を離れ行く十丈の
 崖の底に霞を以て分らず
 霧の世も行く如く
 又此霧は海に消え
 舟も見えず舟の影
 再び進む霞を以て

明治十七年正月十六日

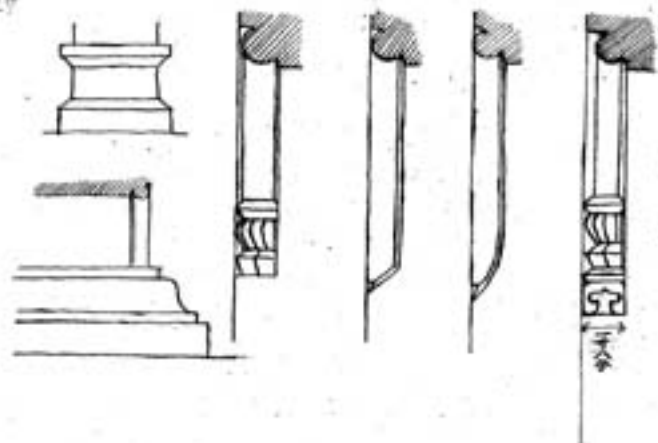
松屋

崖門の朝霧



朝霧 六百年の夢の跡

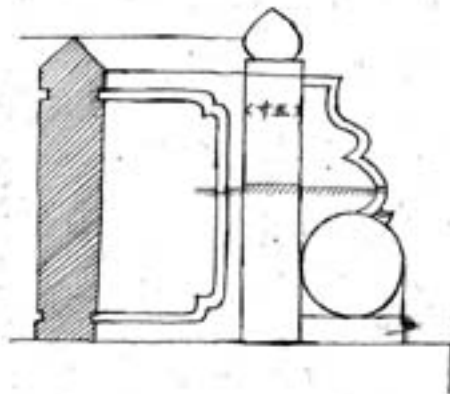
27



○ 廣東城内建築の
Details

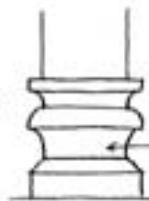
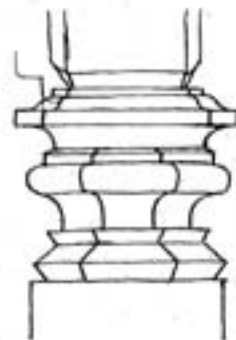
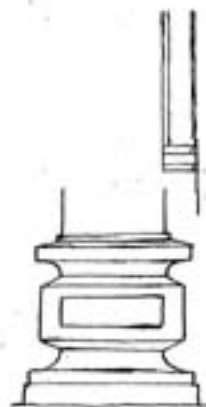
26

27

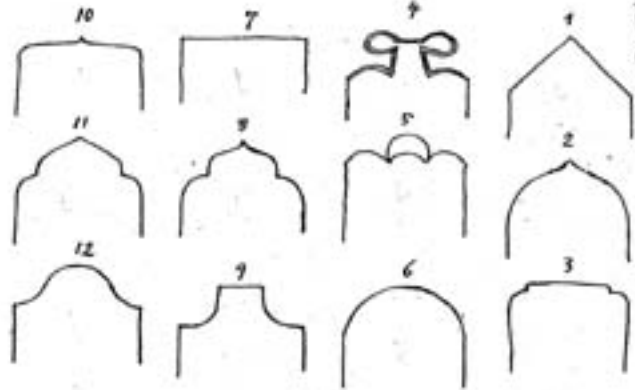


徳の
柱

28

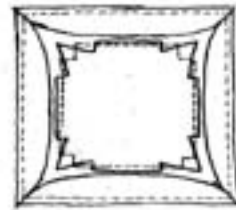


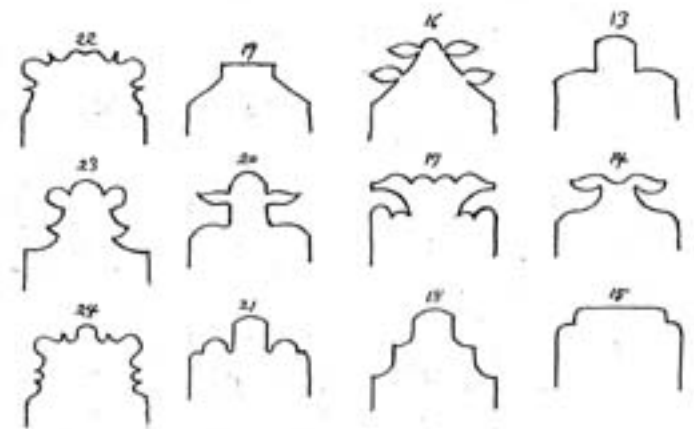
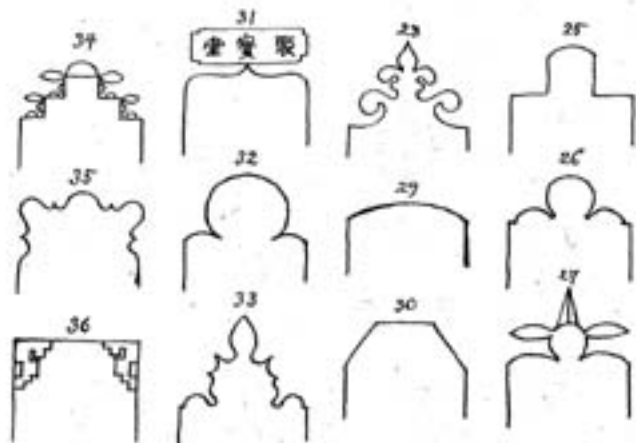
コ
初
の
徑
の
柱
登
の
小
ナ
リ

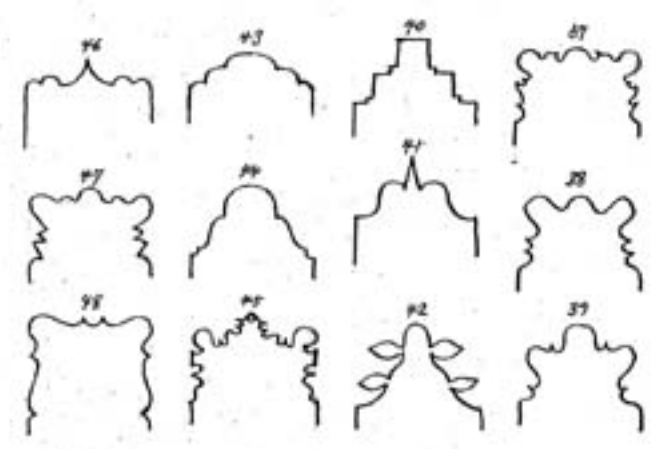
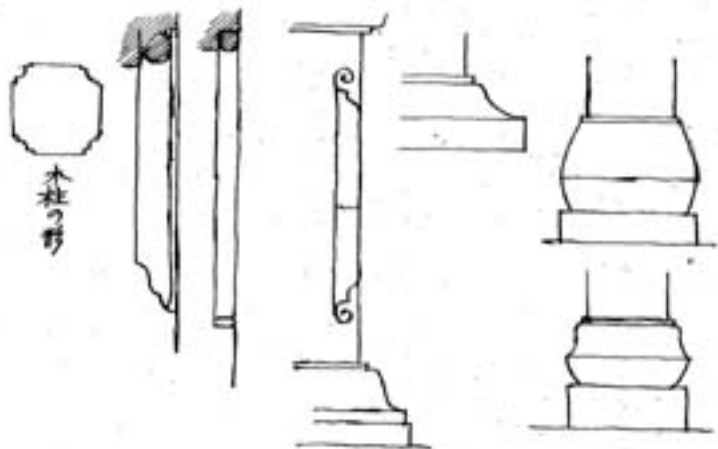


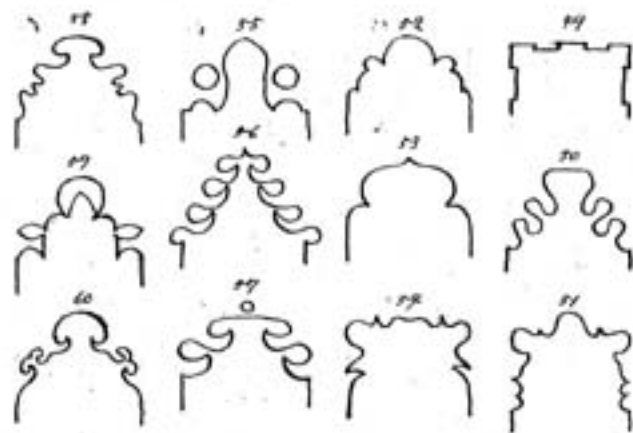
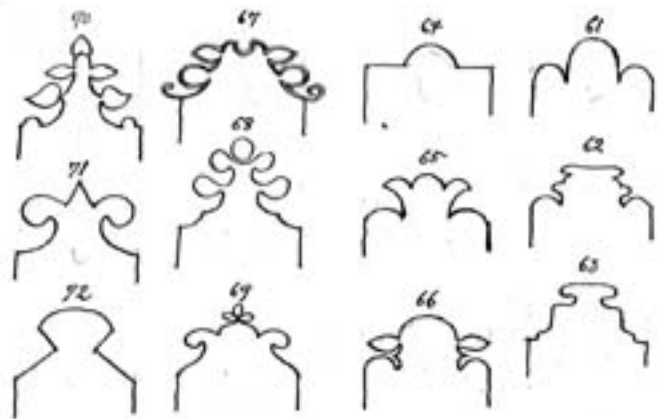
支那の建築の進化ハ
 支那文字の発音の变化の如シ！
 聚寶堂の印シ

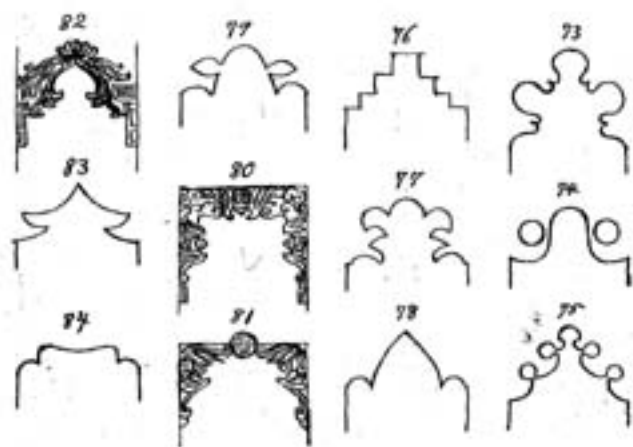
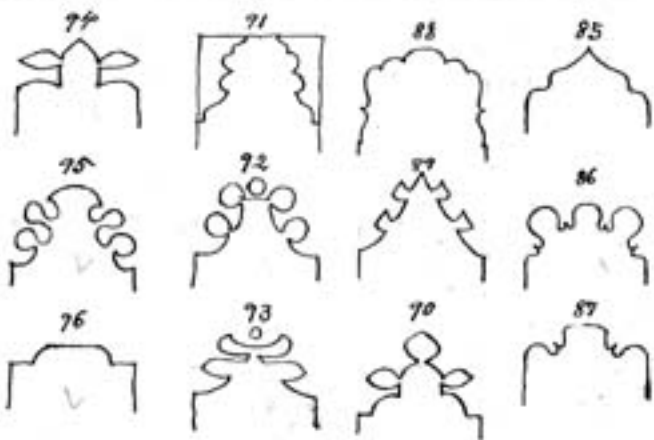
正西門内
 北側民家の礎石
 純然たる Doric Column Style

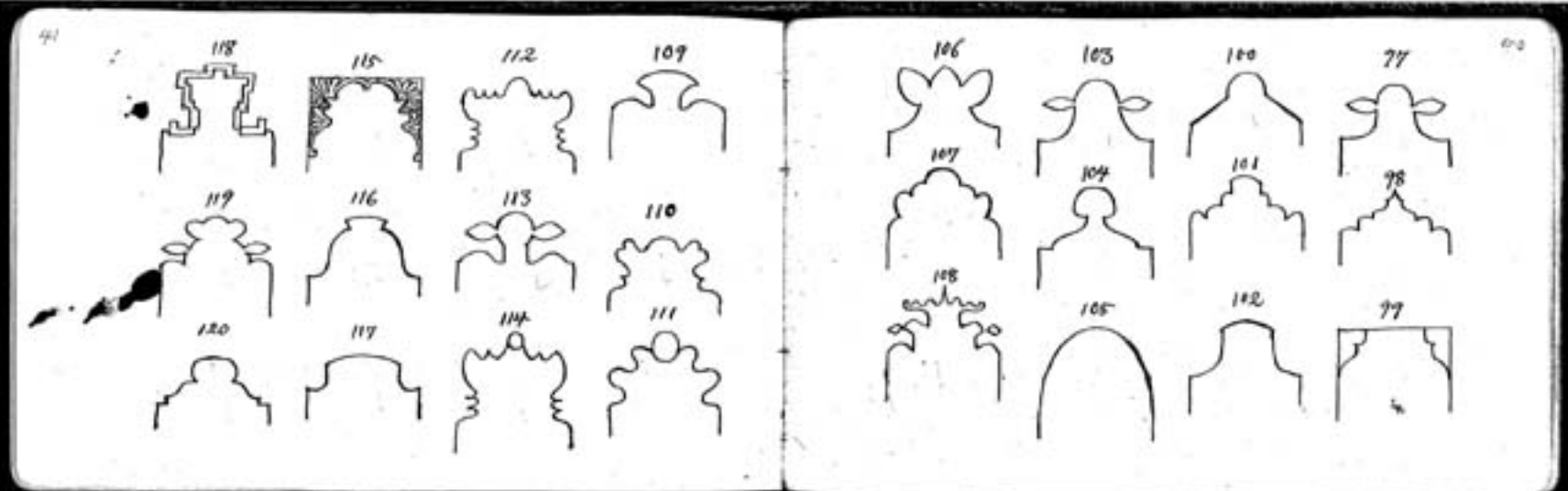




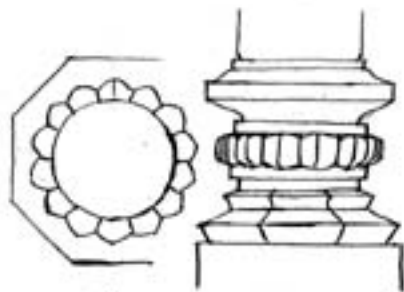








Indian 題名
Muhammad 題名
17 18 70 18

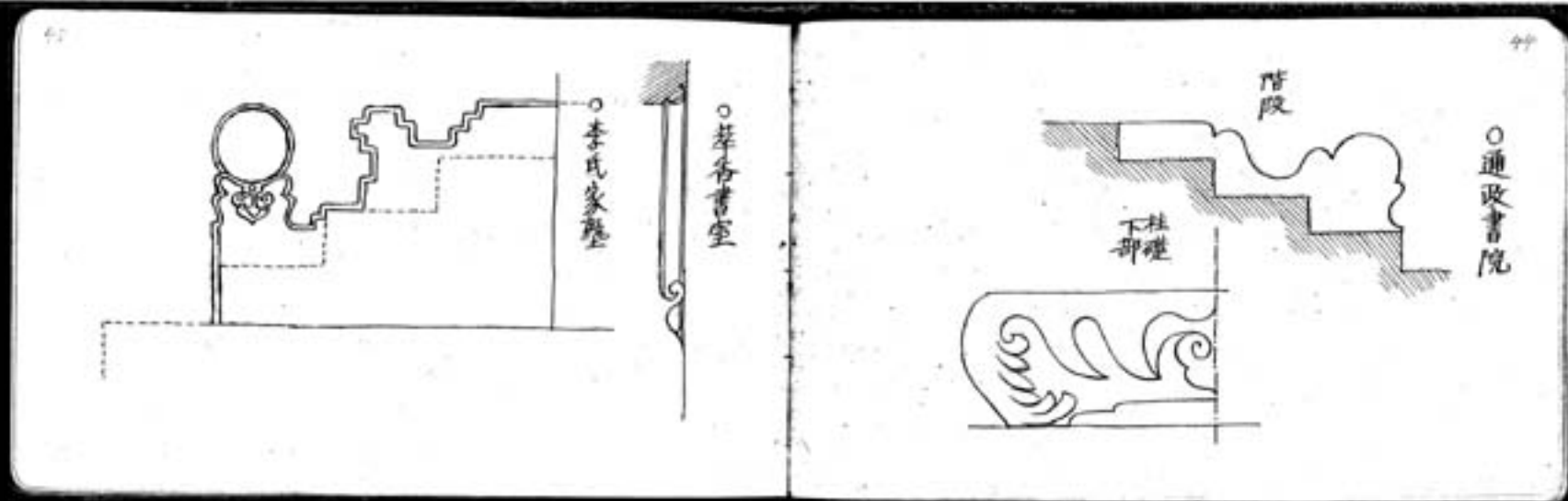


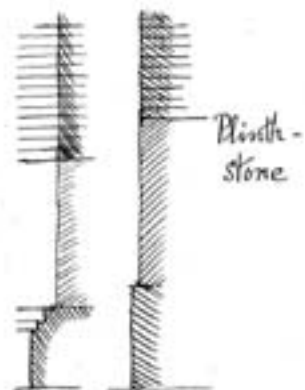
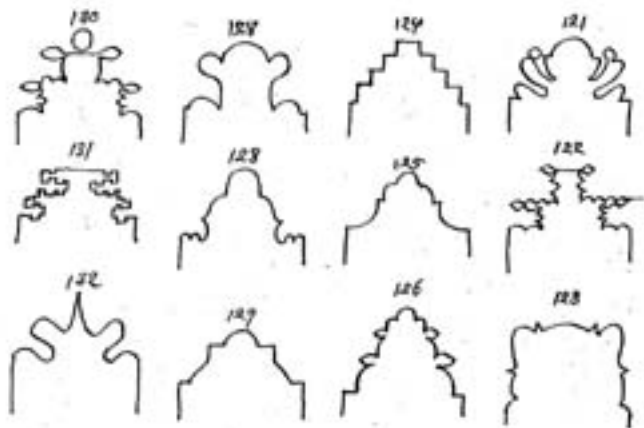
十四
解



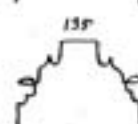
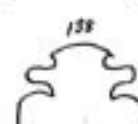
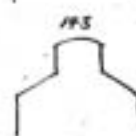
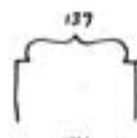
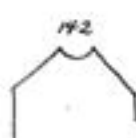
○懷聖寺

櫻月者

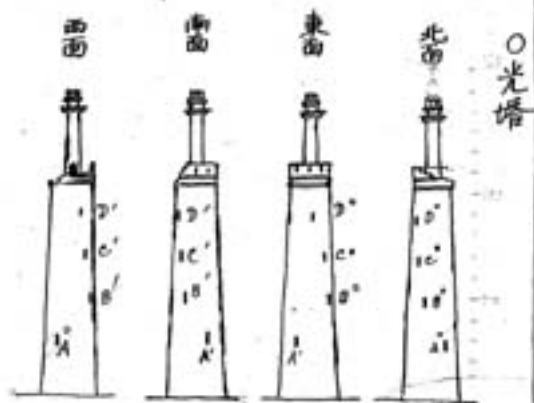




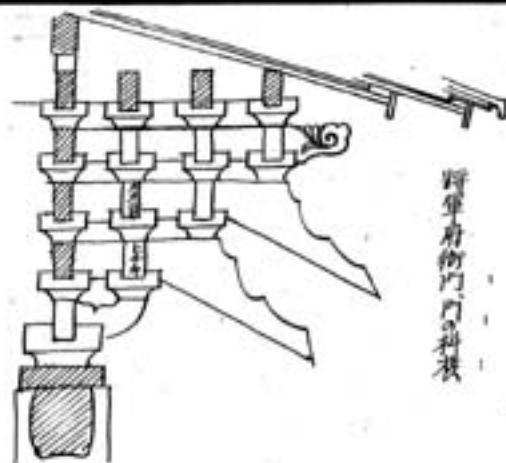
石鏡牙
門

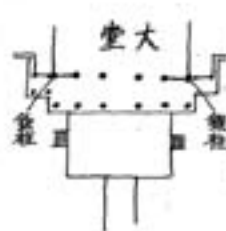


51



50





△布政司衙門大堂

裝飾等類シ

我佛法隆寺の柱の略有す

鏡無シ

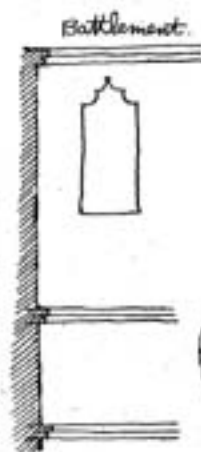
五片ヨリ鑄成せるノ如ク中央ヲ太
ク上下ニエンシスニ附テ下端ヨリ六寸
上端ヨリ一尺寸



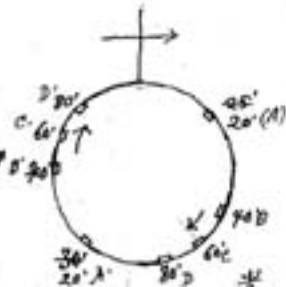
○南漢鐵柱

二基

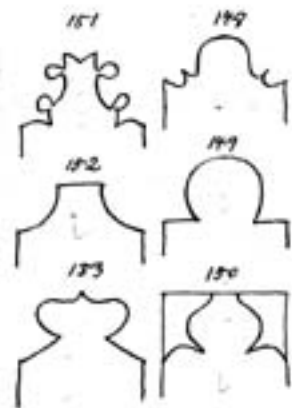
(在布政司衙門内)



Battlement.



光接窓位置



○三君洞 觀音山の夏手廬
 本屋、精舎、蘇軾の合祀ス。
 三ノ画像及宋在與之(南唐人)ノ
 修アリ

聖堂のアーチを就て

アーチの形と想像し得べき凡ての形と
 想像せしむ
 此の通り本建築基本にも適用されつゝあり
 此の形を分類すれば左の如し

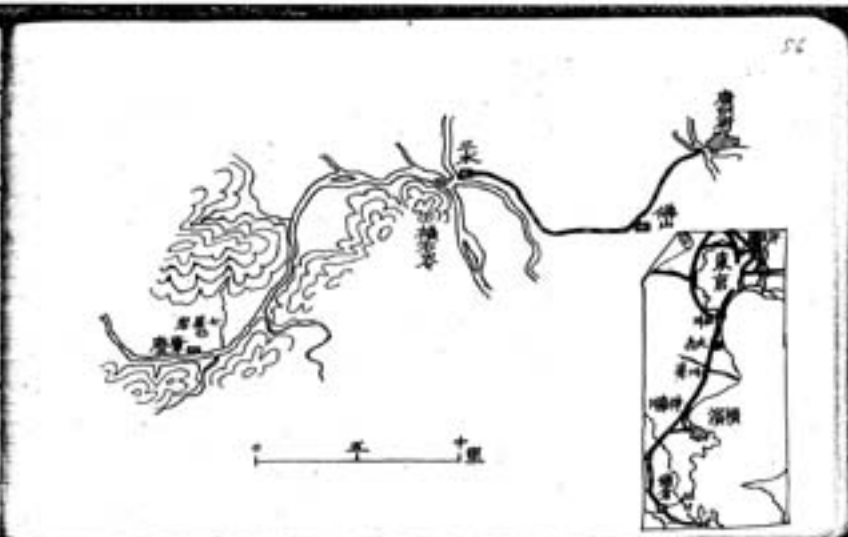
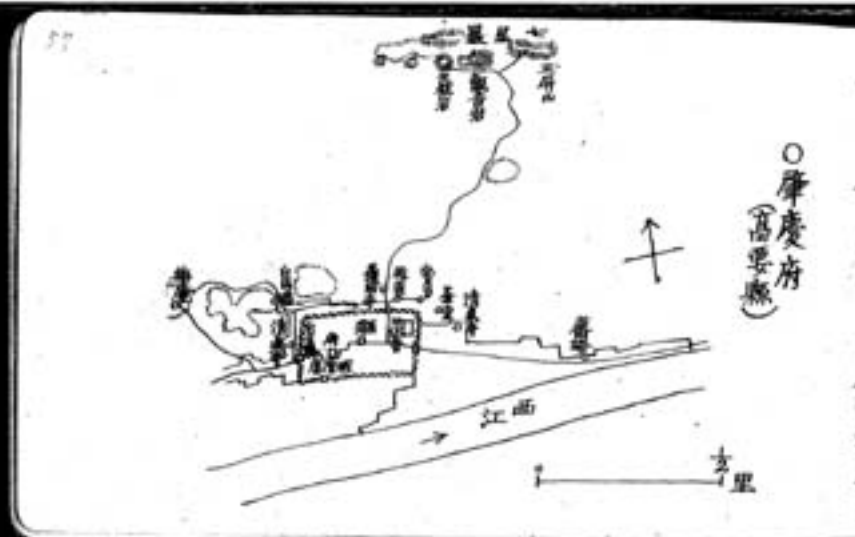
一 水平拱及斜拱

二 四拱及曲線拱

三 尖頭拱及半圓拱

四 圓錐拱

五 鐘標拱



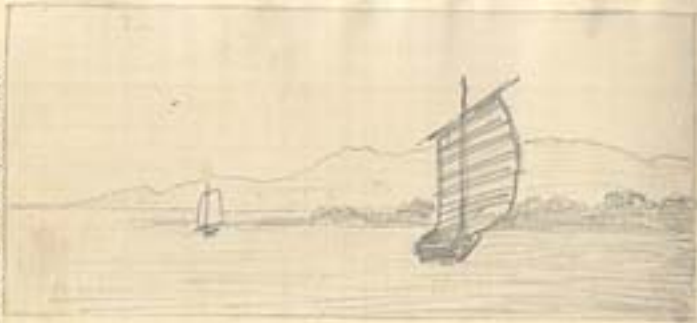


三水崎遠見家

摩慶府

- 高要縣中學 (北門外)
- 望月堂 (全上)
- 松園精舍 (全上)
- 龍岡寺 (全上)
- 天主教堂 (全上)
- 基督堂 (城東二里)
- 東清真寺 (東門外)
- 西清真寺 (西門外)
- 知府衙門 (西門內)
- 古鐘樓 (城上)
- 包孝廟 (全上)
- 陳白沙碑 (全上)
- 府城隍廟 (全上)
- 陳白沙碑 (全上)
- 榕廡 (城西北二里)
- 白馬廟 (全上)
- 七星堂 (城北十里)

三浦半島同山水の風景地を
遊上りてあり



三浦水
半島
山や
百千路

三水



貴客光顧
 一宿兩餐
 寄寓不食
 不在此食
 如不掛號
 換租食用
 唯飯充矣
 鄰房知交
 携來什物
 倘有疎虞
 學息小伏
 出入鎖門
 如有掛借

水棧主人披露

按櫃在房
 收銀二錢四
 收銀一錢或
 兩早聲明
 與同食計
 三天一結
 逾期不候
 小心提防
 貴客自理
 與棧無涉
 請交在面
 謹候小心
 經手是問

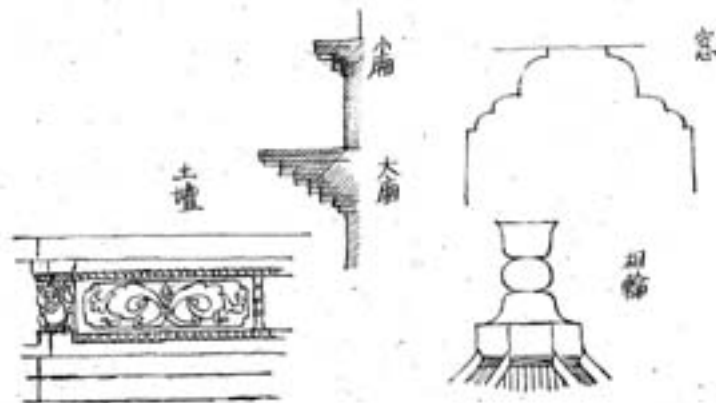
肇慶府東岡
 地安棧の點札

肇慶ハ早邊からし山の端
 見ゆら塔婆の二つ三つ四つ



鎮瑞古廟

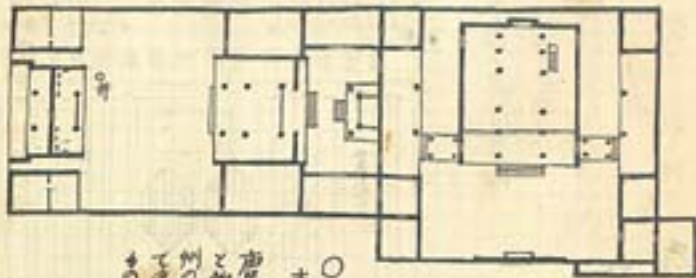
管慶東閣景飾



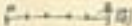
わたり取り残されし庭の石

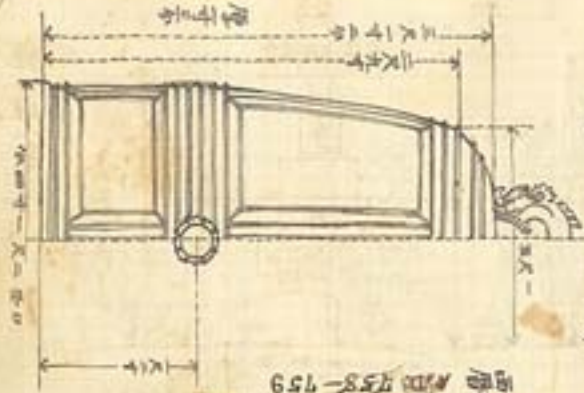


舊都督衙門跡の石獅



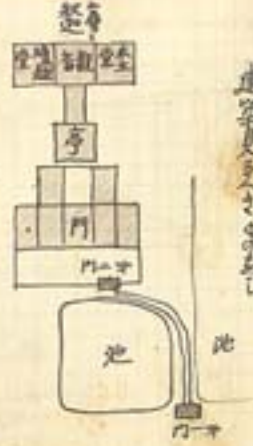
○摩度
東清寺
唐宋より創まる
と称す蓋し唐
州の懷聖寺に次
て建立せられたる
ものなり



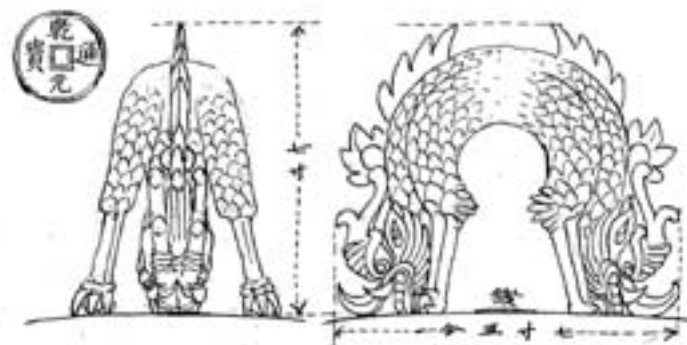
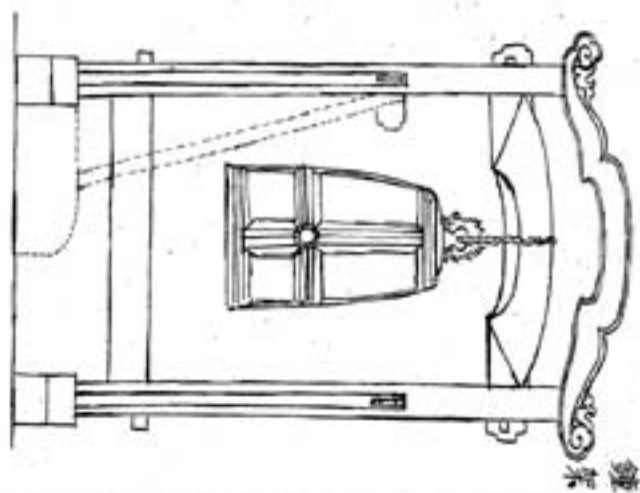


唐乾元元年
日本書紀天皇元年
西曆 758-759

○摩慶府衙門
△麗譙樓
成化七年秋八月建。破門ノ如平掘造下、
拱道ノ上、樓上、唐乾元ノ古鐘アリ。



○祇園精舎
第一門ノ塔ノ塔ノ角ノ角ノ
第二門ノ祇園ノ角ノ角ノ
建室ノ角ノ角ノ角ノ角ノ

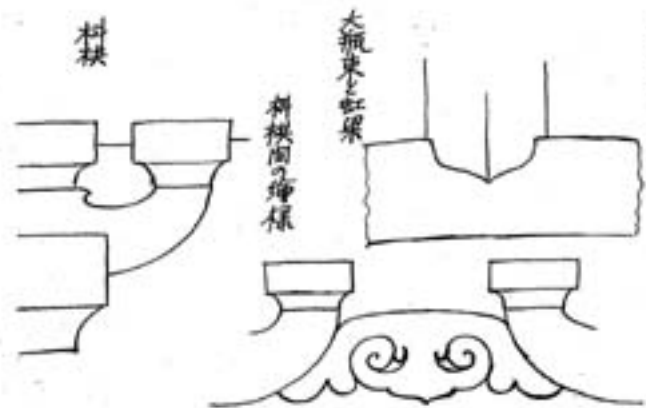


心氷面鍼

○府政障窟
陳白沙の碑あり

○宋包孝南公祠
蘇園閣大學士孝南包丞相と號す
明成化弘治等の重修碑あり
陳白沙の碑あり

大隈の扁云々



護樓の手法

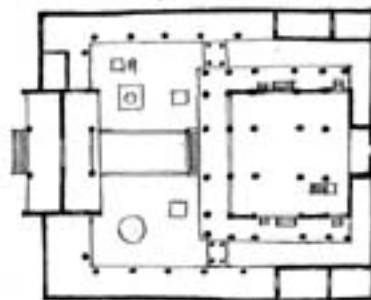


文筆三種



手桶

乾隆平定年建立
道光十一年再建



西清具寺

西清具寺

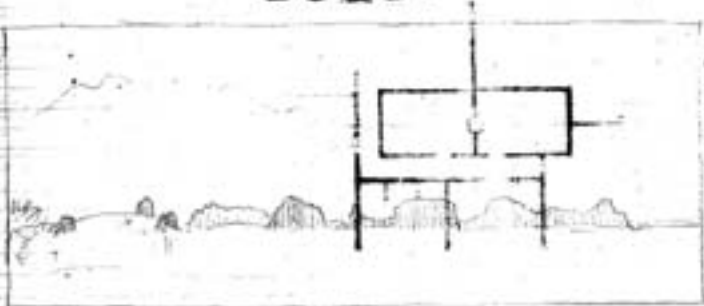
明衣の袖
玉のまが
白妙の色



七星巖

中星の山
星の山
星の山
星の山
星の山
星の山
星の山
星の山
星の山
星の山

七星巖遠望

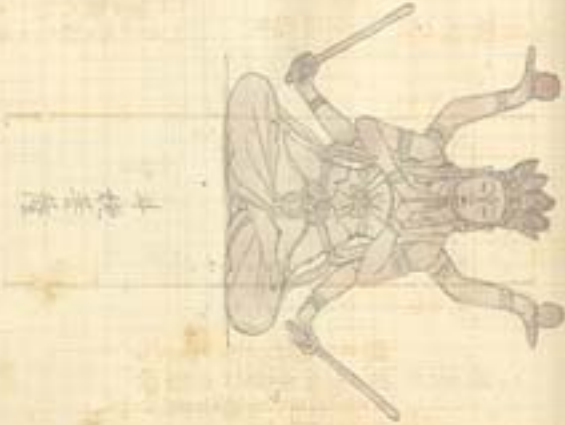


大聖の空より降りし七星巖
巖より降りて誰と侍アらん

天柱岩

現音岩

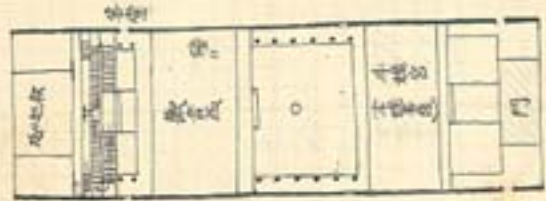
玉屏山



水月精舎の図

鐘
紫願十二年
厚五寸

此の寺の諸仏像と土銅像の了て精
巧なり。他諸寺のものに似ず



観音及威符の土像見よ六し
後子土像寺寶の土像殊
日蓮宗ありて斗地菩薩の
像ありてあり



觀音殿内文殊及普賢菩薩



觀音殿内文殊菩薩

寺より西懸絶無教をう
その最大なる幅五尺四寸高一丈餘

澤梁無禁
巖石勿伐

(全開芳書)

とあり、わがて観音岩の石窟は、
開元十五年の銘を最古とし、宋以
後の銘教多かりし
蘇東坡、周禮澤、包孝肅、王中仁
以下の題銘ありと云ふ
豊原福の二大字ハ窟の右の下にあり
窟の奇巧を極むる造化の一大技術
なり大巖石、法螺石、その他珍奇なる
岩多し、窟道、四通八達、岩形極まる
處を知りず、實に天下の珍也矣。

七星巖觀音巖の石窟

穴深き故に書あり
字ありて以て書して云ふ



下土純陽觀あり

善男善女等神前々跪し飲を取
入在りて候し候し候し候し候し
之を焚焼す

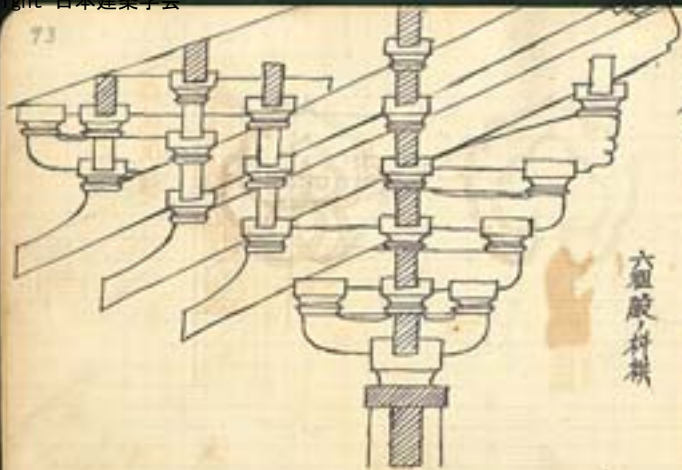
○玉屏山

中腹に大覚寺あり

上玉皇宮あり内玉屏あり

森に叢書きて玉皇宝飾の四宝あり
院志金石界の宋の大中神符のものを
べしと云へり。紋様を扱すも宋以後の中
のちまかたし。





○梅庵

宋至道二年創建

大徳寺禪院ノ寺ニシテ、禪師ハ瑞州ニ生レ
タル人ナリ

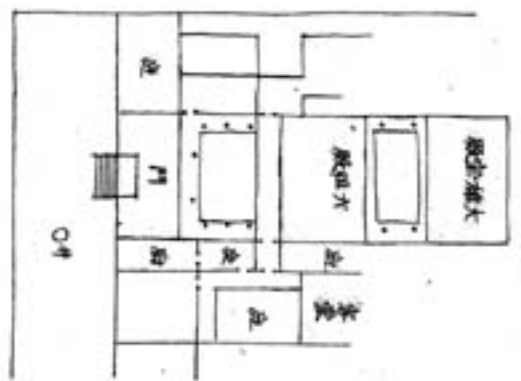
六層殿ノ軒栱

○縣城隍廟



黄草ニ列リ取り取リ束トナシ此
ト石ニテ細條ヲ碎キ以テ其層ニ
製成スルニテハク之ナリ

梅庵の図



卓の紋様



康慶空前の珍客 (伊東平兵衛)
 宣統二年正月十九日 (明治三十五年正月十日)



伊東平兵衛
 手桶を背にし



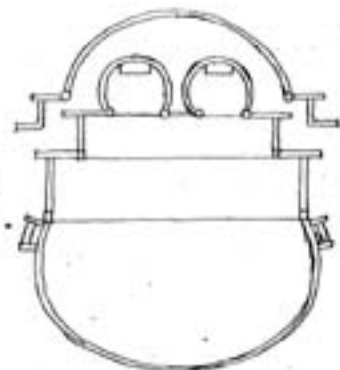
安期山石
桂葉橋のプラン
プランの輪廓が
田舎より成る例



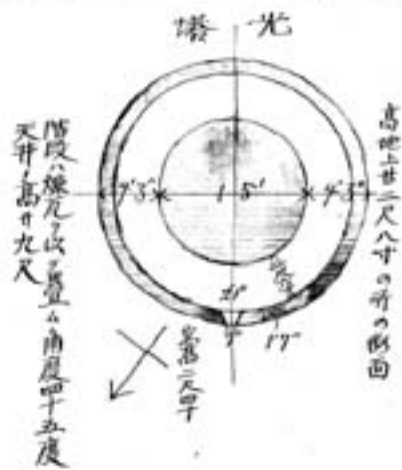
白雲寺下の佛の境石



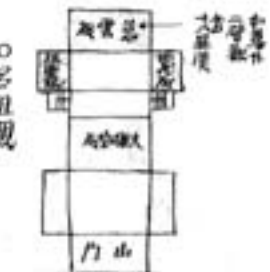
田舎風



白雲山下の境石



○鹿仁寺



- 塔頂
- 塔身
- 山門

○蒲洞古寺

不用山僧道我前白子雲外出山泉
千章古木嘯無地百尺飛鴻瀉滔天
昔日苔蘚居士宅後來蓬萊窟四碑
而今只有蒼舍笑道來空欲摩孃

眉山蘇軾書

○光孝寺内
南漢鉄塔

△東塔



基壇ノ龍

七重鉄塔(東塔)

初層 三尺九寸四方

四面中央香椽形内連座上宝珠火焔あり
左右相對して龍あり其形式手法悉て
唐塔之真髓を傳ふ

西面と北面十年の銘あり
北面左右の端に銘あり

二層

初層の上二重の框の上は一重の蓮瓣あり
上を身立す四面中央の合體中ニ仏の坐像
ありその他四面に横十二列、堅五列ニ区
分して各小仏像を納む

四隅に日月形柱を建す

南と北を彫刻あり
屋根東に雲鳥を彫刻あり

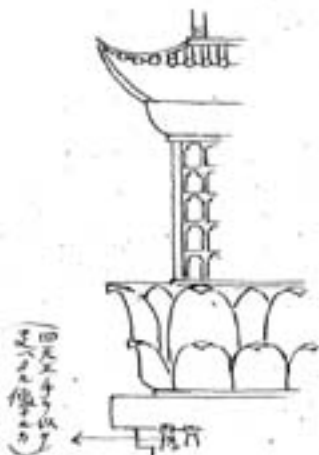
三層

以上在り手法の反覆あり

宝頂

露盤上ニ三重の宝珠あり火焔を附す

107



序 即 二 三 四 五 六 七	上 軒 鳥 雲 重 重 電	下 軒 鳥 雲 重 重 電
--------------------------------------	---------------------------------	---------------------------------

軒重二段、下段、四層、三ノ九

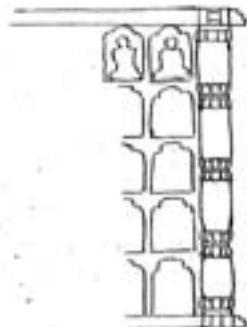
(四重全すう以下)
三ノ九像(ニノ九)

108

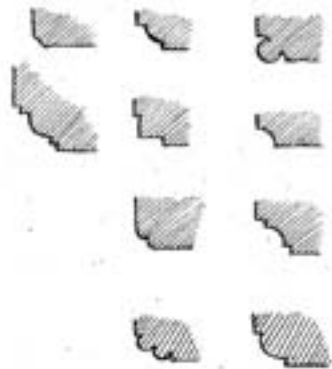
四面ニテ九百九十六條
中央ノ内ヲ合セテ千二百四條

序	二	三	四	五	六	七	八
(5x13)	(5x13)	(4x12)	(4x10)	(4x9)	(3x8)	(3x8)	
- (4x8)	- (4x3)	- (3x2)	- (3x2)	- (3x3)	- (2x2)	- (2x2)	
53	53	42	34	27	20	20	
							242

仙像の数(面々)



四泥柱



面々種殿



△光孝寺祝聖殿の大屋根



△光孝寺六祖塔
每層のニラケカサの構内形ヲ示ス

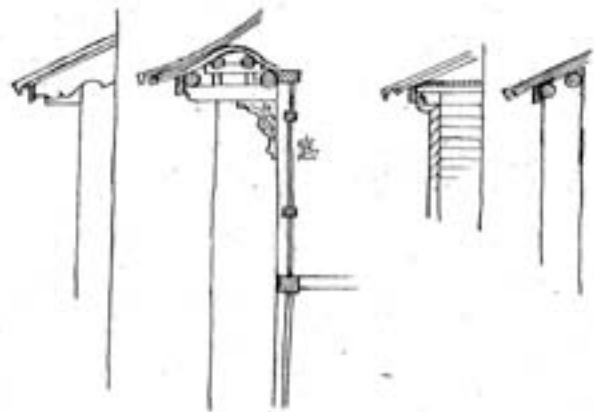




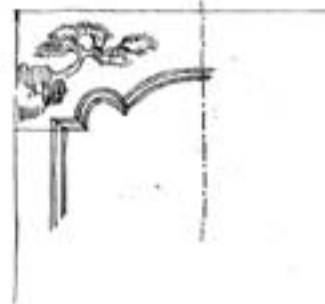
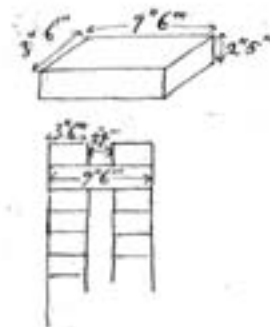
高_一二階_二屋_三六_四寸_五大_六角_七至_八四_九尺_{一〇}位

○店前

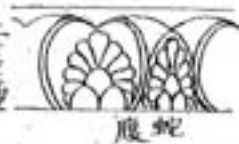
113



112



上基壇
 蓮瓣の上を四隅にカマドトあり中央を平たい
 礎を置く四方より中央を杏葉を左右に
 龍を彫刻するに東塔の如し

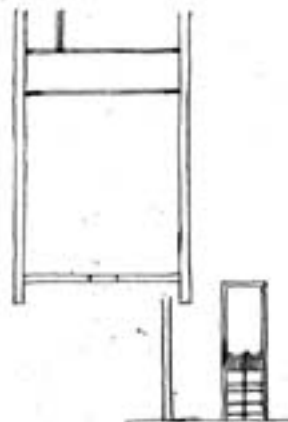
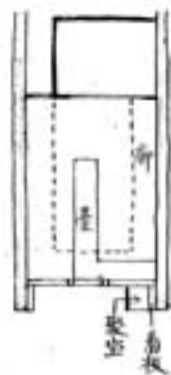


腹蛇



屋根の上の蓮瓣を有る

○光孝寺 西鉄塔
 下 四角七層
 上 基壇 四尺八寸六分角
 四隅の柱



三層屋根



御座四方

東 教進仙
西 弥勒仙
南 弥勒仙
北 葉師仙

二層四方

東 盧舍那仙
西 ?
南 盧舍那仙
北 毗舍仙

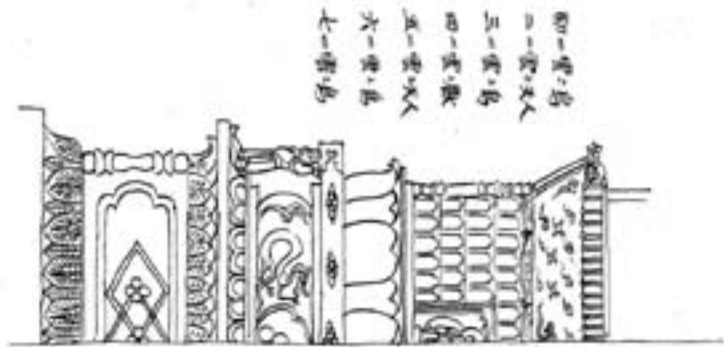
初層 三尺九寸四角四方
蓮坐の上子立ワ
四隅の柱



二層以上全一

初層屋根





一、雲・鳥
 二、雲・天人
 三、雲・鳥
 四、雲・獸
 五、雲・天人
 六、雲・鳥
 七、雲・鳥

序	縦	横	枚数
初	4	16	$(3 \times 4) = 52$
2	7	15	$(3 \times 3) = 51$
3	4	12	$(3 \times 2) = 42$
4	3	12	$(2 \times 2) = 32$
5	3	10	$(2 \times 2) = 26$
6	3	8	$(2 \times 2) = 20$
7	3	8	$(2 \times 2) = 20$

小件條の數(二面付)

273

故に四方ニテ九百七十二條より
 中央併一面一份四面七層より
 二十八條ヲ加ルニ由ル
 大小條合セテ總計正ニシク
 一千條
 トナル



露盤不詳



西塔序南漢内監譚澄魁同女弟于鄧
氏三十二娘力大宅六年于島金と以て銜
進まらぬと十餘厚磨あり定の空慶又
宅年古住持僧了開始て殿を以て之
と覆ふ

△支孝寺鐘樓之鐘

天順五年

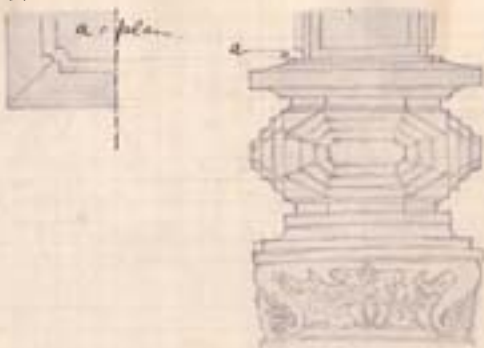
美ヶ丘廣東百式ニコテ赤月銅ナリ

△支孝寺隣仙橋下の磐石

崇禎十一年

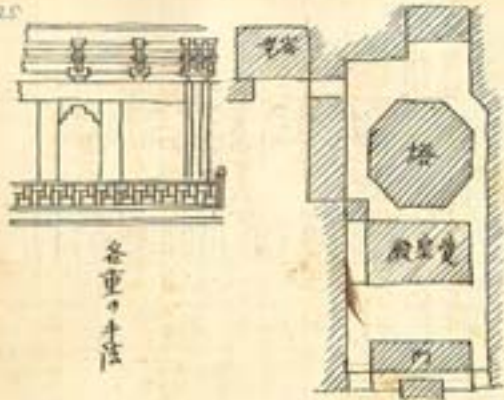
△支孝寺手紙在座

尾蓋の別唐書ニイヘキ全シテ北清の意味
ありて中ニ凡て優美の語あり





○廣東東城
正西門
洪武十五年額



各重の手法

○浄土寺
 山門
 佛堂
 佛堂(華盛)
 佛堂(華盛)とあるは鎌倉河あり

○光孝寺
 大雄宝殿

永享十九年の鐘銘あり。
 銅鐘一口無銘ありて中宋より以後のもの
 ありたり

口径二尺四寸六分
 厚一寸一分

高麗頭を厚き二尺四寸八分

鐘頭は削り如く完備せり。中央は空
 珠と四方あり火燭のまじり形をあり
 撞字あり下より一尺三寸八分
 鐘頭の高さは六寸五分幅七寸二分



弥勒佛

○ 滌壺 (在扶北樓上)

大清咸豐十年冬月吉日
兩廣總督勞崇光重修

の鏡あり漢代の遺物と稱するは
無著あり、又宋の刻本作と稱する
中微証ありし、現今のものは、殊曲異の
作あり。
壺五箇あり水洒上より喉及之下
より下。

小買物



阿婆の人 (並し)



唐氏 (中) 美あり





○汕頭

△廟

新築を道祭の廟あり廣東スタイル
キ一軒以上の裝飾並中あり
一々大々戲の織巧を彫刻を施しか
ラ又杖を以て之を保護せり

△沙汕頭汎

汕頭の小城築ありと周壁ありこの内
建屋あり壁六雉塔鏡眼あり
コ地方一村百姓の集りあり壁を以て
この圍作リ村を鏡らし他姓のものとお
多し攻討を事とす此あり防衛の爲
此の設備を要すやあり



○潮州府 *for China*



汕頭夫人

上海南京路の凡の樓の主人



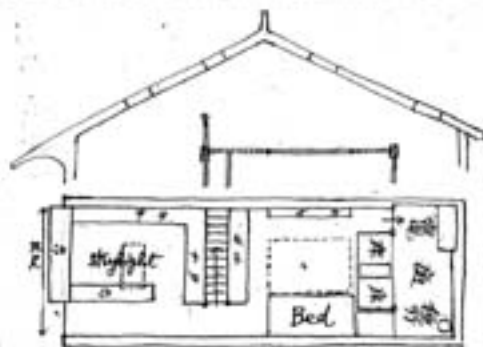
嘉應

嘉應州之楊松世

平甲子平



潮州と京阪

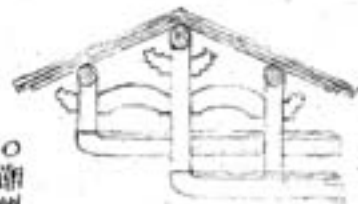


潮州の小店

油桶の重宝は徳の餅をもち花崗石の砂を
石を混して練り交じりたるものにして厚さ五
寸高き三寸余の厚にして厚一尺の間に二層の
壁を別々に築き隔のつあり無しの二階構の
壁は穴を穿ちて丸太を挿入するもの



○蒲州氏家の扉



○蒲州左芝の庇

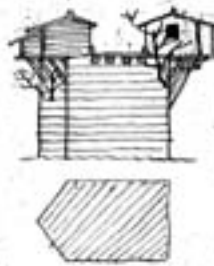
○花條突



「花條突」といふ
朝鹿の尻上、飛り出
穴を穿ちて挿入す

○湘子橋

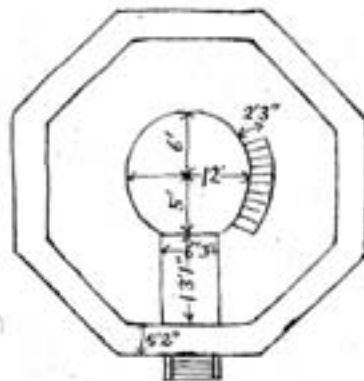
韓江ニ架ス東門外ニテリ
橋基兩岸ヨリ若干箇ヲ定メツ向ハ
舟橋ヲ以テ連絡ス橋臺ノ上ニ左右ニ廊ヲ
接シ架トウカケ出しと作りまハ上ニ家ヲ建ツ



湖州、市街建茶、聚宝堂ナレ
 金層ノ厚少レ
 採光ノ目窓ヲ店前ナレ
 西洋趣味塔博塔アリ



二重ノ石礎以上
 横列座ニ重テハ
 内側ノ柱代ニ登リ
 7.5m以上ノ壁内
 7.5m後

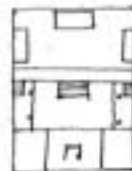


可溪塔 八角七重内部六層貫通ス

○韓文公之祠

正東に在り

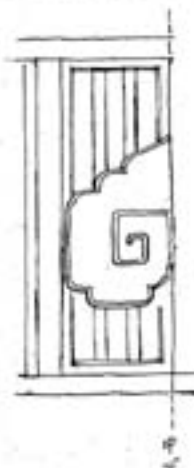
韓文公の像あり、祠の権儀の像あり、
閣前を神台と云、皆全一型なり



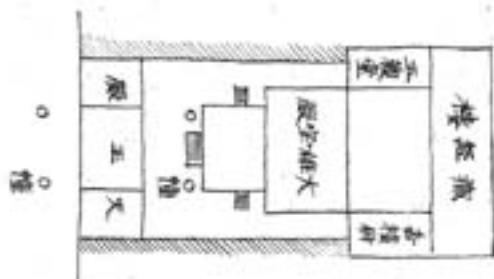
庚化、五層塔礎以下碑あり、
白雲洞開ハると洞内より、
下の基の板の中を通り、

○庫

二層あり、甲は前記の八分と、
乙ハその型あり

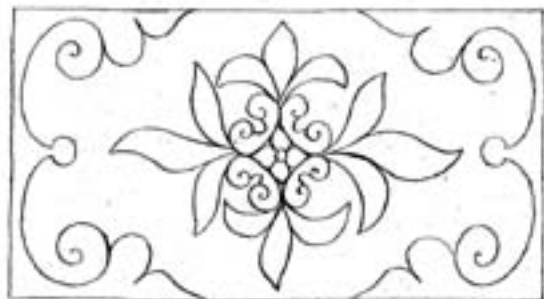


○開元寺



二階ノ石幢を見れば、
真中の石幢に經文、
上を唐代ノモノと云

193



11.10.10

192



開元寺大権室殿の石欄をう

南貴德對



長身之貴
也



長身之貴
也

○支那人之姿勢

紳士平座



○潮州風俗

公子胡座



片足下ヲ休ムトモ安勞

職工吃飯

家婦沈布



男工共ニ地上
物ヲ扱フ
止リテ
男工共ニ地上
物ヲ扱フ
止リテ



苦力休息

小兒弄喜雀



正室婦操櫓



掌櫃算錢



姑娘跪坐





船史操坪

墨淡格闘



光澤贈博

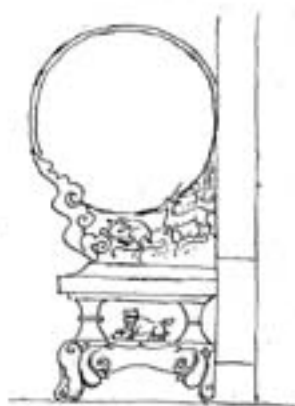




帰朝

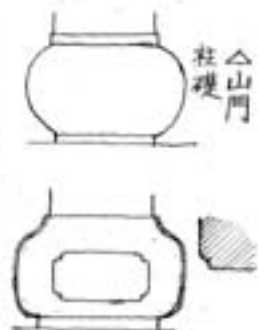


一長一短



石敷

△山門(飛騨版ノ中内)



△山門
柱礎

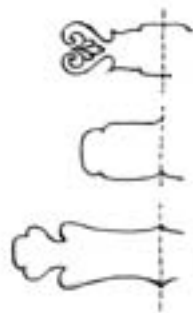
○ 福濟禪寺
 萬曆戊戌年中秋吉旦開山
 福濟寺
 福濟寺子母堂
 本堂

○ 福濟禪寺

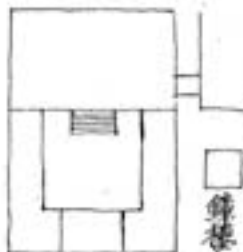


本堂の屋根

○ 長岑建築の左那攝味
 聖林山(百蓮堂)本蓮寺



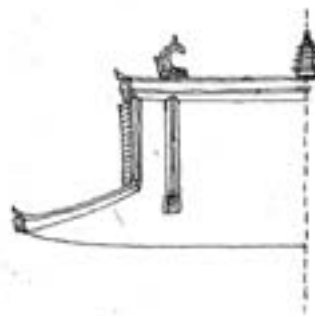
△觀音殿



同治元年重修
ノ碑ナシ

△觀音殿

鐘樓
(推定同治元年
重修ノ際ナリ)



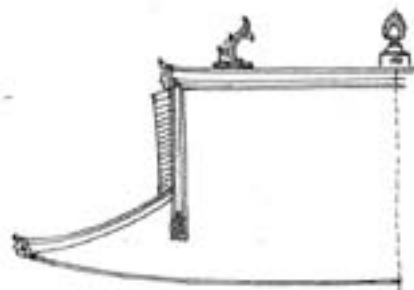
△大藏宝殿



△中内内、弥勒、布袋ノノ



○ 聖壽山浄土福寺
 △山門、門鏡、内、天井、庭、
 棟、宝珠、子、新式、皇太子門式ナリ



屋根

室内、総工式ナリ

△牙門

才一筆の誤り、御森宮
在史の御儀
村模、地左部の

△大雄堂改

号く廂下、天井左部の
棟ノ懸

△山門ノ棟



要文ニ長考ニ控ケんヤ御屋敷ハツノ
planニ在リ大佛立御師ナルト云々ノ小御立
立形式ノ混用ニ于テニヨリ日守懸味大云々

19

曲皇明鏡

西浦真寺

梅菴

會公祈

城隍廟

言文

英德南山石壁刻石
英後碧落洞題額
高要七星巖題額
波羅南海神廟碑

鷄血

寺
英
德
南
山
石
壁
刻
石

洋務局

蘇又六薛

石球

法真寺

美

光塔

蕃塔

廣州府志
卷之
三
三
三

庚戌年官高快覽

崖山志

府志

卷之
三
三
三

清国廣東下 第十九卷

建築雑誌社

植
山
正
雄

Copyright 日本建築学会

十層の金堂
十一の表門



Palace Hotel
1893, 64/90'

$h = 92$
 $h \cdot g = 401 = 4 \cdot 4 = 255'$
 $40 = 4 \cdot 1$

Cathedral $h = 153'$
Tientsin Town



Shanghai
Municipal Council

American C. Higgins

S. J. Muller

Uniform Concrete

Foundation $\square \cdot \frac{1}{2} \cdot (11 \cdot 4 + 1)$

上海外灘
八角十七号
建築事務所
1893
工費五十五万
六十五万
1893
255'

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

8.30
 11.30 55.00 22.5
 1.29 11.30 11.3
 7.15 5.9.50 35.60
 8.17 11.00
 9.49 12.25
 11.29 2.10

歩



歩



此の印
は
清
信
雄
の
印
也

二▲日人繪畫各處砲台形圖之深心。邇來日本遍派偵探。和測各處砲台形圖。日前小呂宋拘獲購買砲台形圖日人兩名。判違解出境。前禮拜有日本東京美術學堂卒業生名那蘇。日前入廣東內地數禮拜。繪測砲台形圖。旋香港後。一美術展覽會。十八日復扮華人裝。在港鯉魚門砲台繪形圖。為兵官所見。以其無嫌。而內穿西裝。外穿華人長派兵伺之。見其繪畫形圖。即拿之。該日人即欲將圖撕。為英兵奪回。控之於案。廿三日提訊。英弁金馬倫指証。第一幅係洗衣兵房。第一幅係鯉魚門西便舢板圖。第一幅則砲台形。則不知繪何處者。第四幅係繪入白水灣砲台之門戶。該日人則供稱係繪廣東內地者。裁判官判苦監禁。

排瘴防疫

衛生聖藥



仁丹

大日本陸海軍醫務總監保明卓效

○仁丹探掘高貴藥料
 所成心修合以故異常
 服此丹能開胃消食防
 疫解毒保精氣血轉弱
 為強 則其味清香其
 香則高而除口臭口臭
 並祛烟毒酒毒

試服	小	大	中	小	試服
只金	全金	全金	全金	全金	只金
五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢
五錢	五錢	五錢	五錢	五錢	五錢

此藥由日本醫學博士保明卓效監製

凡買上等者請認明此堂二宅買受李途慶堂自置大屋

The most
 -medic
MORISHI
 CHAKA.

大藥房經理

實盈支附積

Copyright



Copyright